

『 評 価 書 』

福島県立安積黎明高等学校

平成31年3月15日 学校評議員による評価

学校評議員による評価	学校からのコメント及び次年度に向けての方向性
<p>I 学校における自己評価活動の取組み</p> <p>I. 1 『学校経営・運営ビジョン』と校内組織体制について</p> <p>○課題が多いようだが、生徒が自分で考えてやりたい勉強ができる時間は確保されているか。</p> <p>○手取り足取りで指導するばかりではなく、生徒が自分から考えて先生に聞きに行くような体制は取れないか。(そうなれば、先生の多忙化解消にもつながられるのではないか。)</p> <p>○先生の多忙化が叫ばれている。月の残業時間が60時間程度まで減らしていく必要があるのではないか。</p> <p>○センター試験改革、働き方改革等、学校教育環境が大きく変化している中、教育の質を落とさず、また、教科の弱点の改善をしながら対応されている。また、先生方の意識の改革をするために、生徒の自主性を伸ばす教育方針と合わせて組織改編に取り組まれている。</p> <p>○今年度の取り組み重点として、「主体的に学ぶ力の育成と授業の充実」「学校を取り巻く情勢の変化への対応」の項目を加え、また、今年度の取り組み重点については、5項目が重点的に取り組めるよう大きく改善・充実され、「学校経営・運営ビジョン」に基づいた校内組織体制がしっかりと樹立し、実践・評価され大変すばらしいと思います。</p>	<p>○時間が確保できている生徒もいるが、課題の提出でアップアップの生徒もいる。生徒一人一人にあった指導をしていく必要がある。</p> <p>○生徒に応じた指導方法も検討していきたい。そのために、学校からの課題等の出し方についても変えていく必要があると考えている。</p> <p>○現在は在校時間の平均で月75時間程度。勤務時間を延長しないで校務が終えられるように、勤務の在り方を変えていく必要がある。</p>
<p>I. 2 『学校経営・運営ビジョン』の展開と自己評価について</p> <p>○社会や世界の変化、災害も大きくなっているが、その変化に対応する学校や高校の改革が重要。時代の変化や社会のニーズに合わせて、学校の進む方向をよく検討して取り組んでほしい。県立高校改革の実施計画はよく検討されているが、安積黎明高校として、きめ細やかな指導は大変ではあるが、核になる学校として、今後も努力してほしい。</p> <p>○授業第一の体制と、生徒の自主性のUPを合わせた取り組みをされている。地域(保護者)からの評価が面倒見の良い黎明高校との印象が強いようですが、自分で考え行動できる(自主性:勉強も人生設計も)黎明高校へとなるべく、先生、生徒合わせた意識改革に取り組まれている。</p> <p>○アンケートと集計結果の分析をしっかりと作っており評価できるが、生徒・保護者の満足度がやや低下したのは気に掛かる。これが、先生や授業の質の低下が原因でなければ良いが、研修等により指導力の向上をお願いしたい。</p> <p>○不登校や学校不適應を起こして進路変更する生徒が減少したことは大変良かった。退学をして、将来引きこもりになると働かなくなって生活に困るようなことも出てくる。引き続き、生徒の心に寄り添った対応をお願いしたい。</p> <p>○実践事例として、「不登校問題」を学校挙げて組織的に取り組み、その結果、「休学・退学・転出の生徒や不登校の生徒」が大幅減少し、目を見張るほどの成果が上がりました。本人はじめ、先生方も、家族も安堵したことと思います。不登校の学校復帰が大変難しい中、生徒一人一人に着目した学校の組織的な取り組みと先生方の継続的で暖かく熱心なご指導が生徒の心に少しずつ行き届いて良い影響が得られたことと思います。大変すばらしい実践・成果です。</p>	<p>○「学校経営・運営ビジョン」に基づく各部署の目標と実践及び自己評価について、概ね良好であることを確認いただいた。特に授業中心の教育活動について概ね賛同を頂いていることは、地域の進学校としての自負とともにその責任の重さも痛感するところである。各部の反省を改善に生かし、生徒の目標実現のために学校の課題解決に取り組んでいきたい。</p> <p>○アンケートを、結果を見るだけのものにしないように、次年度への改善点を明確にして、それぞれについて具体的な対応策を策定する。</p>

<p>I. 3 広報とアンケート等について</p> <p>○学年通信の内容が大変充実して素晴らしいものです。学校の様子や行事のお知らせは勿論、「大学受験の準備」「受験に向けた具体的な準備や心構え」等、貴重な内容です。さらに、生徒だけでなく保護者への重要なメッセージは信頼感が一層深まることと思います。校長先生をはじめ先生方、教育実習生からの1ページもの思いのこもった貴重な文章は、人生の分岐点にいる生徒達に向け道しるべとなり、人生を選択する「今」を自覚させ、ずっしりと心に届くと思います。安積黎明高校の学年通信は、「宝物」です。</p> <p>○ホームページ等の多種多様な広報の発信により、校内での生徒の様子が保護者の方へ伝わっていると思う。今後も継続していただきたいと思います。</p> <p>○各学年の広報活動には毎年驚かされます。先生の負担が多いのか、生徒の負担が多いのかと心配してしまう程、生徒一人一人が参加し主役になれる広報活動を継続頂きたい。アンケートは、生徒・保護者の満足度の高さには毎回驚かされますが、今後も今のレベルを維持発展できるよう、黎明ビジョンを進化継続頂きたい。</p>	<p>○各学年の「学年だより」の発行数の多さや、内容の質の高さに高い評価を頂いた。また、生徒・保護者アンケートにおける学校への満足度が高いことにも高い評価を頂いている。保護者や地域への情報発信をさらに充実させ、地域から信頼される学校であり続けたい。</p>
<p>I. 4 取組み状況全体について</p> <p>○不適応生徒に対する予防的な教育相談の充実について、昨年度と比較して半減し大きな成果が出ている。先生方と保護者、外部のカウンセラーの方々との連携が取れている証だと思われしますので、今後も継続してこの取り組みを続けて頂きたい。</p> <p>○沢山の課題がある中で、優先順位を検討し、行動されていると感じました。今後も継続よろしくお祈いします。</p> <p>○どのように社会が変化しても、困難に立ち向かう強い意志が必要です。生徒の主體的な学び合いと高め合う姿は、まさに、「主體的、対話的、深い学び」で大事な要素が養えます。先生方の熱意あふれるご努力と、生徒一人一人の挑戦や頑張りの経験が生きる基盤となり、今後の人生に影響を与えていくことと思います。</p>	<p>○本年度は、休学者や退学者、長欠者が昨年度の約1/2となり、不適応症状を示す生徒が減少した。これは、担任や教育相談の係を中心に、生徒との面談やカウンセリングを積極的に行ってきた成果であるが、より予防的・開発的な教育相談も重要なので、次年度はさらに改善を加えながら学校不適応の防止に努めていきたい。</p>
<p>II 自己評価活動と学校評価全体への学校の組織的な取組みとその改善</p> <p>○生徒と先生方とのコミュニケーションは不適応生徒の減少等で良い結果がでているので、今後も継続よろしくお祈い致します。先生方の環境も働き方改革は、短期間に改善を求められています。限られた時間と人数での対応は、事前の計画と実行力に掛かっています、先生方の意識改革をお祈い致します。合わせて、生徒自身の自主性がなければ先生方の働き方改革の実現はないと思います。合わせて生徒の意識改革のご指導もよろしくお祈い致します。</p> <p>○新しい時代を目前に控え、学校全体の評価活動が適切に実施され、反省と課題を明確にし、「学校経営の樹立・実践・評価」等、学校を挙げた大きな取り組みの実践に、心から厚く敬意と感謝を申し上げます。</p> <p>III その他</p> <p>○やや減少したとはいえ、「入学して良かった」と評価している生徒が85%ある学校はすごいこと。野口英世賞を受賞して北大へ合格した生徒のように、一芸に秀でると進路が実現しやすくなる。生徒や保護者の期待に今後も応えていってほしい。</p> <p>○時代の変わりに伴い、学校も今後様々な変化を余儀なくされる事と思います。常に柔軟にかつ機能的に変化に対応される事を望んでおります。生徒が変わるにはまず学校が変化を恐れない事かと思っています。</p>	<p>○職員の平均の労働時間は多い月で85時間を超えた。これは大変に厳しい数字なので、職員の健康維持の観点から改善が必要である。しかしこれを行う上では、これまでの伝統的な指導の在り方(面倒見のよい学校)をそのまま実践していたのでは難しい面があるので、残すべき点と改善すべき点を取捨選択しながら行っていきたい。</p> <p>○生徒の状況やニーズを踏まえながら、改善すべき所はしっかりと改善、実行していく必要がある。期待に応えられるような学校づくりを継続する。</p>